



大洲藩の分家・新谷藩の陣屋



新谷藩は大洲藩から分かれた二万石の陣屋。大洲藩初代藩主の加藤貞泰は、嫡男の泰興（二代藩主）に対して、「領分六万石のうち一万石を次男の直泰に分知するよう」と遺言した。その言葉が守られ、直泰は寛永19年（1642）に新谷藩の陣屋を構えた。その名残が、慶応4年（1868）に評議所として建てられた麟鳳閣だ。江戸時代の典型的な武家造りで、質実な中にも気品が感じられる。現在、陣屋の跡地は新谷小学校となっており、麟鳳閣も校庭の一角で子どもたちを見守っている。

麟鳳閣



開基は大洲二代藩主・加藤泰興



臥龍淵の東、富士山の中腹にある如法寺は、寛文9年（1669）に開かれた古刹。大洲二代藩主加藤泰興の命を受けて、江戸時代前期の禅僧・盤珪永啄が開山したといわれている。以後、大洲藩の菩提寺として栄え、江戸時代には多くの末寺を有していた。現存する仏殿は、寛文10年に建立されたもので、国の重要文化財の指定を受けている。入母屋造本瓦葺きの堂々たる仏殿が、深い緑におおわれた様子は幽玄の趣に満ちている。また、苔むした石灯籠や手水鉢、地藏堂なども見応えたっぷりだ。

如法寺